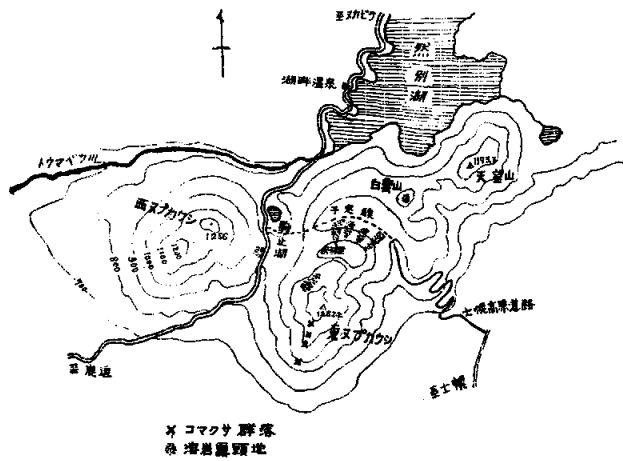


東ヌブカウシ山の自然保護

藤村俊彦



周知のように東ヌブカウシ山は、大雪山国立公園の最南端に位置する火山で、一、二五二・二mの熔岩円頂丘である。その生成は第四紀はじめに行われ、最後の活動は熱帯性のもので、沖積世初頭であったといわれている。十勝平野のどこからも望見できる山容は古くからアイヌ民族の狩猟時の目標とされていたように、道内では古くから名づけられている数少ない山の一つである。しかし、平野部から望見すると一見植物相の貧弱な様相を呈し、然別湖にいたる道路からみてもダケカンバの疎林が中腹以上にみられるのみで、さして興味をそそる山には見えない。ところがじつは、この山が植物からみても動物からみても宝庫といえる山であり、広大な大雪山全体の自然を濃縮したものといっても過言ではないのである。

この山の北側には、然別湖との間に白

雲山の西尾根が火口原湖である駒止湖まで延びており、それとの間に標高八〇〇—一、〇〇〇mの谷を形づくっているが、一旦この谷にはいと東ヌブカウシは南西の単純な様相と一変し、深い原生林と、四カ所に分布する熔岩の碎屑丘とで特長づけられる特異な景観を呈する。

高木の多くはアカエゾマツであつて、しかも熔岩上に堆積した蘚苔と地衣類との上に生じており、根は浅くしかも純林を形成しており、大雪山中でもほかでは見られないものである。

さらに風衝地では熔岩が山頂近くまで露出して、その間隙にエゾイソツツジ、エゾムラサキツツジなどが群落を形成し、イワブタロ、ミヤマオダマキ、シラネニンジン、エゾヒメタワガタ、タカネオミナエシ、ガンコウラン、コケモモなどの高山植物が点在し、ハイマツが標高九〇〇mにまで降下しているのをみることもができる。ミヤマオダマキはさらに低くまで分布し、南西の谷の入口では標高五〇〇mの牧場のササの中にも見ることが出来る。

そしてこれらの碎屑露出地はナキウサギの恰好の生息地でその密度は高く、また道内でも最も標高の低いものであらうと考えられる。さらに天然記念物のカラ

フトルリシジミはこの付近一帯に分布するが、道内における他の産地はラウス岳、大雪山中央台地、ピパイロ岳などすべて標高一、五〇〇m以上に限られており、一、〇〇〇m以下に極地性のこのチヨウが分布することは驚異に値するものである。

さらに驚くべきことはこの山にかなりのコマタサが自生していることであつて、ごく最近、北大・伊藤浩司博士らによつて詳細に調査されたが、それによれば東ヌブカウシの山頂より南西にのびる尾根の裸地に、ツリガネニンジン、ダケカンバ、ときにエゾヨモギなどの亜高山し平地の植物と共存しており、まったく植物学的にも未知のユニークな群落であるという。帯広畜大・芳賀良一博士によつて、この山から哺乳類一九種、鳥類六三種が記録されているが、その中にはエゾタヌキ、タマゲラなどの稀少な種類が含まれている。

十勝平野から裸山のように見えるこの山がこのように貴重な動植物の宝庫であるといふことは、その立地条件と気象との微妙な関係によつて局地的に著しく寒冷になり、かつ然別湖からの水蒸気と、広大な十勝平野を渡る風が直接この地域にぶつかり、谷や尾根を吹き上がつて、

大雪山の中でもこのように高山性の動植物が低標高にまで分布する特異な環境を作ったものと考えられる。これらの熔岩砕屑の裸地はすべて崩落ではなく、周水河作用によって生成されたものと考えられ、その地史的な研究は今後にまつべき点も少なくない。

最近この地域にも大規模林業園、道々、こどもの国などの開発計画がつきつぎに公表されているが、全国にも類をみないこの地の自然を保護することは緊急の問題である。それは伊藤博士の主張にもみられるように、単にコマクサやナキウサギを文化的価値から単独に指定することはあまり意味はない。過去における幾多の例からみても明らかのように、環境を破壊して種の保存はあり得ないからである。とくにこの地域は低山・高山にいたる植物分布が非常にせまい地域に圧縮されており、それらに依存している動物

がいまだに絶滅を免がれている貴重な地帯であり、これらの生態系自体に重要な意義がある。したがって環境全体を保護して、貴重な動植物が今後も同じ条件下で生存を維持できるような対策がとられなければならない。

この観点から筆者は、この地域一帯を原生自然環境保全地域に指定することがもっともよいと考えているが、既存の自然公園法などとの関連で現行法で指定不能の場合は、現在大雪山の中央台地以上に限られている特別保護地区を拡大して天望山、白雲山、東・西ヌブカウシ山を含めた然別火山群を、これに含めることがよいと考えている。

私たちは、この地域の学術的な価値とすぐれた景観とを広く一般の方々に理解していただくと同時に、その保護運動に關して多くの方のご協力をお願いするものである

(十勝自然保護協会理事長)